

第 48 回 荒川区政世論調査

《概要版》

荒川区では、区民の皆様のご意見やご要望を区政に反映するため、毎年、区政世論調査を実施しています。この調査によって得られた結果は、適切に把握・分析した上で、すべての区民の皆様に幸福を実感していただける、よりよい区政運営のための基礎資料として活用してまいります。併せて多くの皆様に参考にしていただければ幸いです。

調査の実施に当たり、ご協力くださいました区民並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

荒川区区政広報部秘書課

◆調査の概要

◇ 調査対象	区内在住の満 18 歳以上の個人	◇ 配布方法	郵送配布
◇ 対象者数	3,000 人	◇ 回収方法	郵送またはインターネットによる回収
◇ 抽出方法	層化 2 段階無作為抽出	◇ 有効回収数 (率)	1,287 件 (42.9%)
◇ 調査期間	令和 5 年 8 月 29 日～9 月 29 日		

◆調査内容と主な調査結果

【居住と生活環境】住み続けたいと回答した方は 9 割である。

【地域とのつながり・暮らし】地域の行事や活動への参加状況について、参加している方は 3 割半ば近くである。

【防災対策】災害時に備えた食料や飲料の備蓄について、「普段使っている食料等を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）」と回答した方は 6 割で最も多く、次いで「備蓄用として販売されている長期保存用食料等を備蓄している」が 3 割半ばを超えている。

【防犯対策】自転車の施錠状況について、「いつもかけている」は 8 割強となっており、「かけていたり、かけていなかったりしている」(12.8%)、「常にかけていない」(2.1%)と続いている。

【健康づくり】健康診断の 1 年以内の受診状況については、「職場の健康診断を受けた」が 4 割近くで最も高く、次いで「区の特定健診を受けた」(26.7%)、「受けていない」(14.6%)と続いている。

【脱炭素社会に向けて】各家庭での取組について、「日常生活が不便にならない範囲で取り組みたい」は 6 割強で最も高く、次いで「積極的に取り組みたい」(15.4%)、「何かメリットがあれば取り組みたい」(12.6%)と続いている。

【人権意識】今の社会は人権が守られているかについて、「十分ではないが守られている」が 6 割半ば近くと最も高く、次いで「あまり守られていない」(17.0%)、「十分守られている」(12.1%)と続いている。

【区政への関心と要望】区政への関心度は、関心があると回答した方が 6 割弱である。

◆概要版の見方

- ◇ 図中の「n」は、その設問の回答者数を表しています。
- ◇ 小数点第2位を四捨五入したため、回答率を合計しても100%にならないものもあります。
- ◇ 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数としたため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがあります。
- ◇ 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によって語句を簡略化してあります。
- ◇ ライフステージは、以下の定義に従って区分しています。
 - ・家族形成期 : 「39歳以下で同居している子どものいない夫婦」または「同居している一番上の子どもが小学校入学前」
 - ・家族成長前期 : 「同居している一番上の子どもが小・中学生」
 - ・家族成長後期 : 「同居している一番上の子どもが高校・大学生」
 - ・家族成熟期 : 「64歳以下で同居している一番上の子どもが学校卒業」
 - ・高齢期 : 「65歳以上で同居している一番上の子どもが学校卒業」または「65歳以上で同居している子どもはいない」
 - ・高齢期(一人暮らし) : 「65歳以上で一人暮らし」
 - ・一人暮らし : 「64歳以下で一人暮らし」

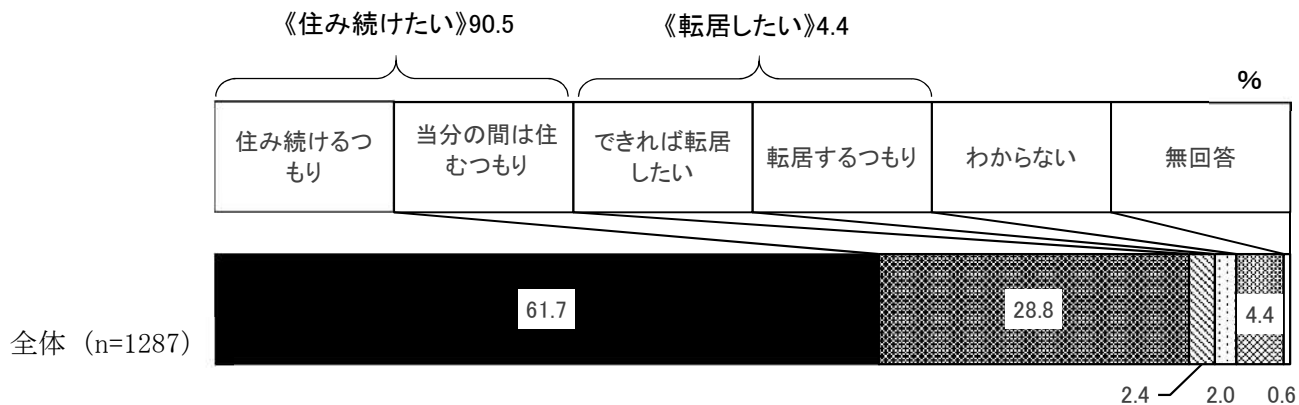
この概要版は、荒川区政世論調査報告書を抜粋し、まとめたものです。報告書全文は、区役所地下1階の情報提供コーナーや各区立図書館、荒川区ホームページでご覧いただけます。

(荒川区ホームページアドレス <https://www.city.arakawa.tokyo.jp>)

1. 居住と生活環境 【継続調査項目】

設問：これからも荒川区にお住まいになりますか。（回答は1つ）

「住み続けるつもり」（61.7%）と「当分の間は住むつもり」（28.8%）を合わせた《住み続けたい》（90.5%）の割合が9割であり、高い割合を示している。



※平成 30 年度調査

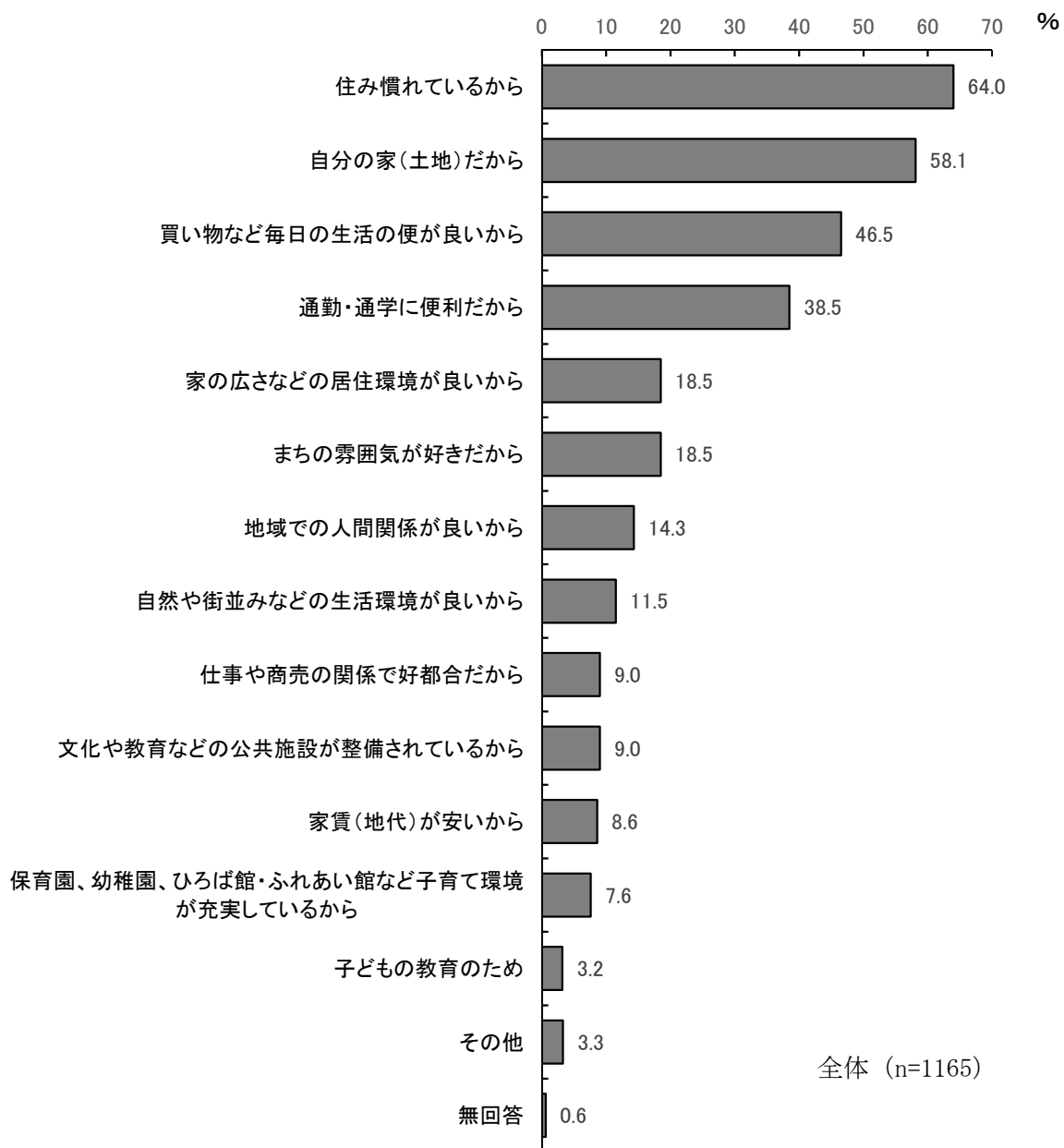
住み続けるつもり	60.8	87.7
当分の間は住むつもり	26.9	
できれば転居したい	3.1	5.7
転居するつもり	2.6	

※平成 25 年度調査

住み続けるつもり	61.3	87.4
当分の間は住むつもり	26.1	
できれば転居したい	3.4	5.5
転居するつもり	2.1	

設問：《住み続けたいとお答えの方に》その主な理由は何ですか。（回答はいくつでも）

「住み慣れているから」（64.0%）が6割半ば近くと最も高く、次いで「自分の家（土地）だから」（58.1%）、「買い物など毎日の生活の便が良いから」（46.5%）、「通勤・通学に便利だから」（38.5%）が比較的高くなっている。



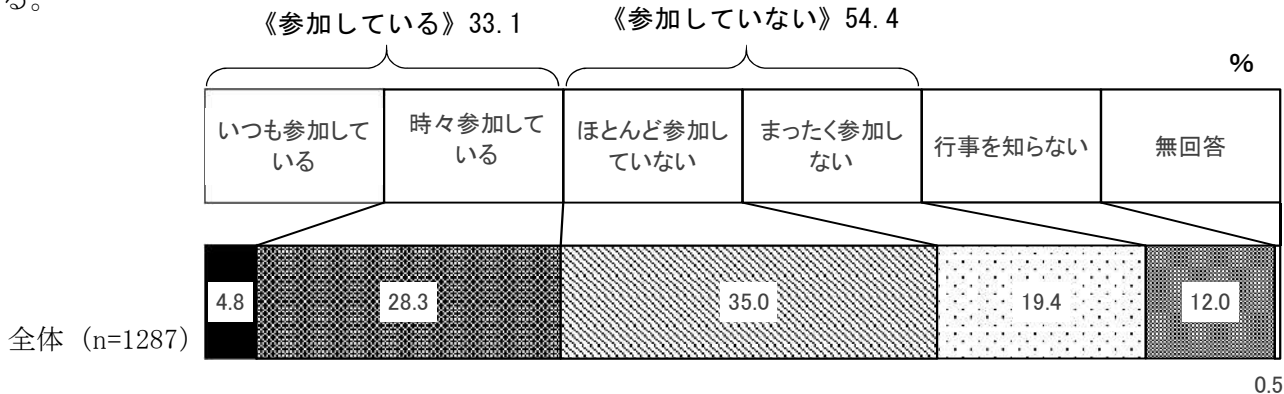
※昨年度調査（上位5項目）

住み慣れているから	63.9
自分の家（土地）だから	56.7
買い物など毎日の生活の便が良いから	47.7
通勤・通学に便利だから	39.4
家の広さなどの居住環境が良いから	17.8

2. 地域とのつながり・暮らし 【各部依頼調査項目】

設問：あなたは、地域の行事や活動に参加していますか。（回答はひとつ）

「いつも参加している」(4.8%)と「時々参加している」(28.3%)を合わせた《参加している》(33.1%)は3割半ば近くとなっている。一方、「ほとんど参加していない」(35.0%)と「まったく参加しない」(19.4%)をあわせた、《参加していない》(54.4%)は5割半ば近くとなっている。

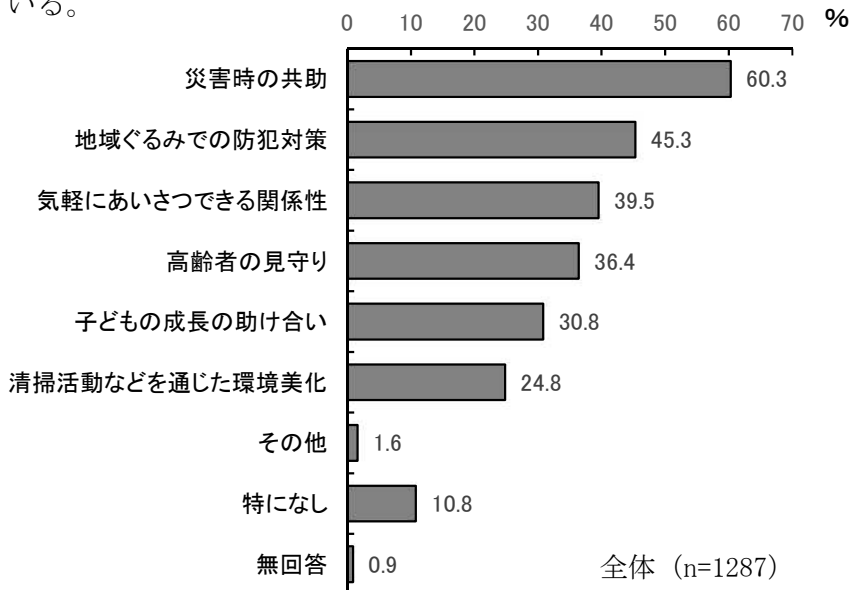


※令和3年度調査

いつも参加している	4.5	30.6
時々参加している	26.1	
ほとんど参加していない	33.0	57.7
まったく参加しない	24.7	

設問：あなたは、町会・自治会をはじめとする地域コミュニティにどのようなことを期待しますか。（回答はいくつでも）

「災害時の共助」(60.3%)が6割と最も高く、次いで「地域ぐるみでの防犯対策」(45.3%)が4割半ばとなっている。

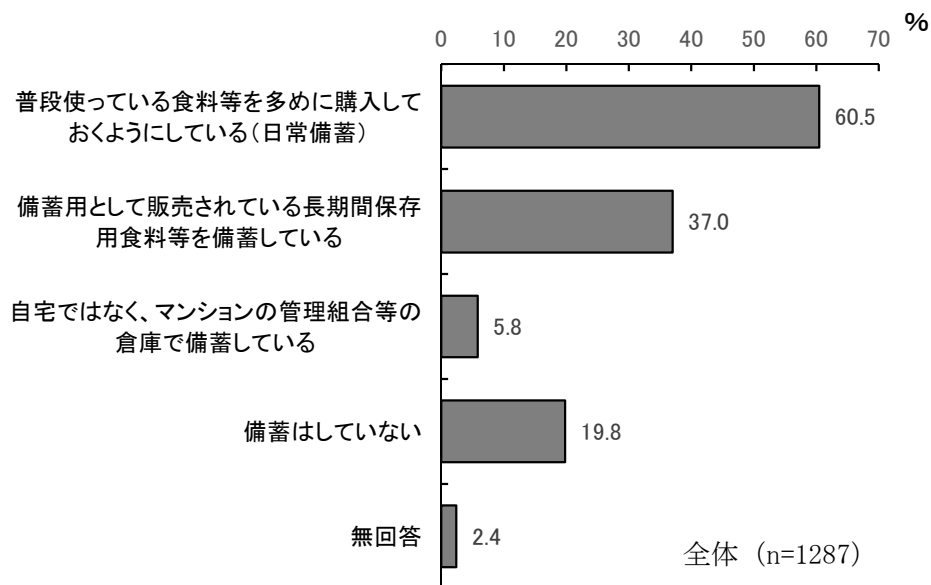


3. 防災対策 【各部依頼調査項目】

設問：災害時に備えた食料や飲料水の備蓄について、どのような取組をしていますか。

（回答は「備蓄をしていない」以外はいくつでも）

「普段使っている食料等を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）」（60.5%）が6割で最も多く、次いで「備蓄用として販売されている長期間保存用食料等を備蓄している」（37.0%）が3割半ばを超えている。



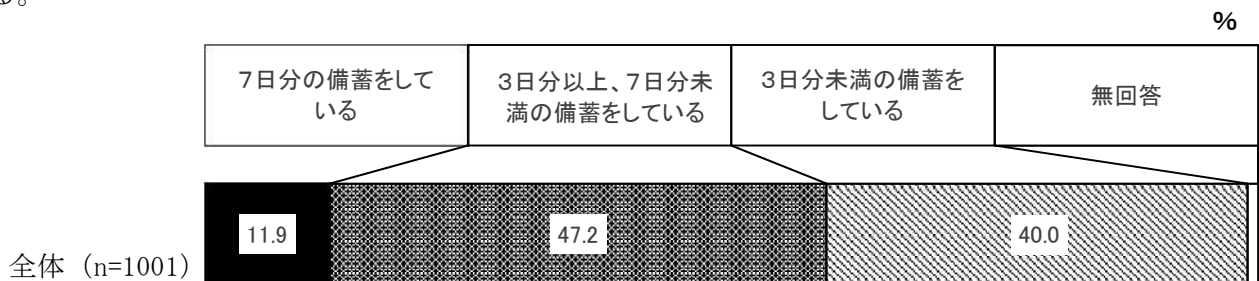
※昨年度調査

普段使っている食料等を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）	59.2
備蓄用として販売されている長期間保存用食料等を備蓄している	35.1
自宅ではなく、マンションの管理組合等の倉庫で備蓄している	5.6
備蓄はしていない	22.7

設問：《備蓄をしているとお答えの方に》

何日分の備蓄をしていますか。（回答は1つ）

「3日分以上、7日分未満の備蓄をしている」（47.2%）が4割半ばを超え最も高く、次いで「3日分未満の備蓄をしている」（40.0%）、「7日分の備蓄をしている」（11.9%）と続いている。



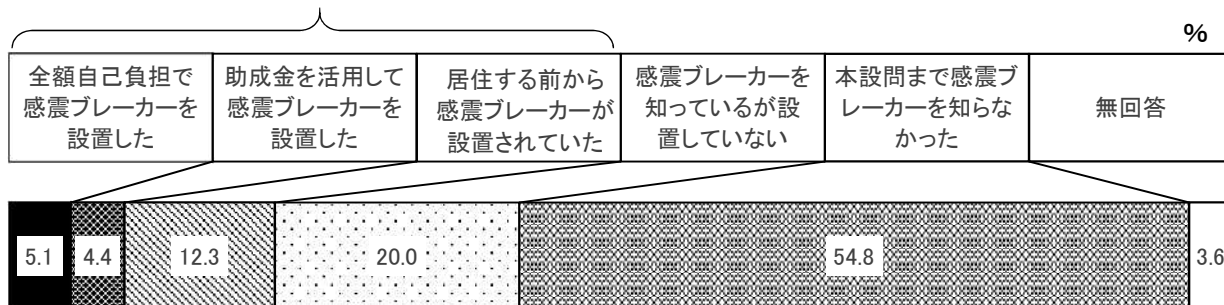
※昨年度調査

7日分の備蓄をしている	13.1
3日分以上、7日分未満の備蓄をしている	46.9
3日分未満の備蓄をしている	39.2

設問：地震発生時の通電火災を防ぐために、強い揺れを感知した時に電気を自動的に止める「感震ブレーカー」の設置状況についてお答えください。（回答は1つ）

「全額自己負担で感震ブレーカーを設置した」（5.1%）と「助成金を活用して感震ブレーカーを設置した」（4.4%）と「居住する前から感震ブレーカーが設置されていた」（12.3%）を合わせた《設置している》(21.8%)は2割強となったが、「本設問まで感震ブレーカーを知らなかった」（54.8%）が5割半ば近くとなっている。

《設置している》21.8



全体 (n=1287)

※昨年度調査

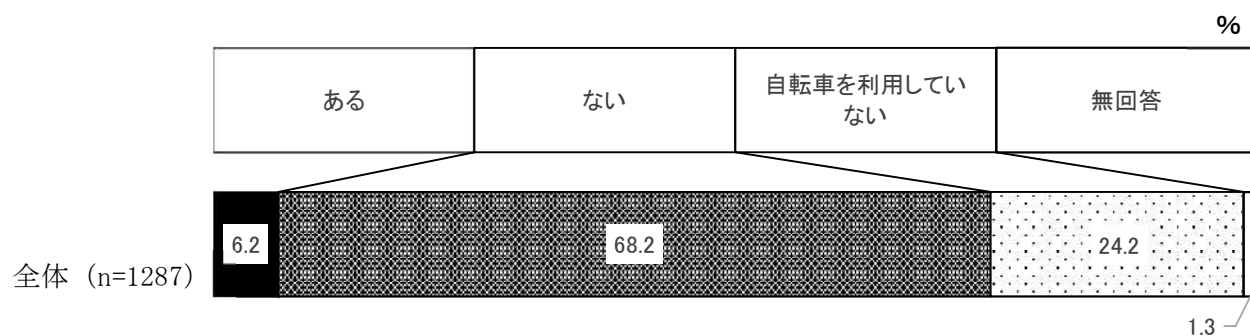
全額自己費用で設置した	3.9	19.8
助成金を活用して設置した	4.2	
居住する前から設置されていた	11.7	
知っているが設置していない	17.8	75.1
知らない	57.3	

4. 防犯対策 【各部依頼調査項目】

設問：あなたは過去5年以内に、自転車の盗難被害に遭ったことがありますか。

(回答は1つ)

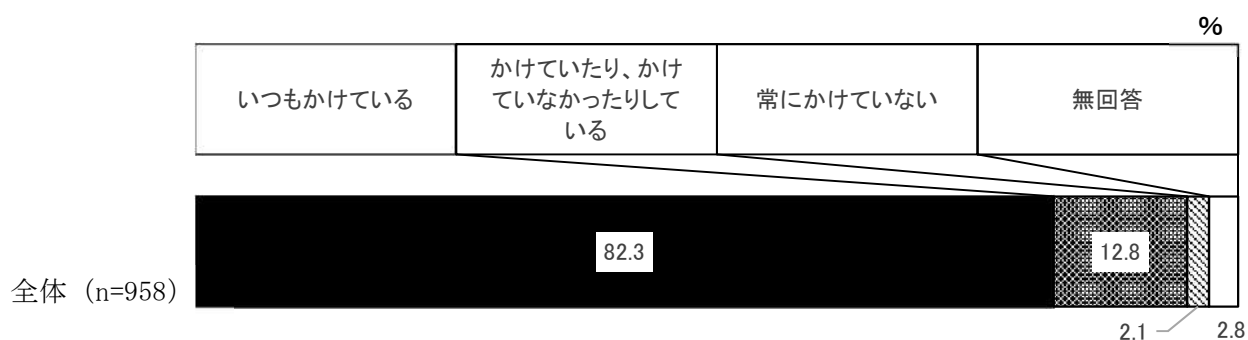
「ない」(68.2%)が7割近くで最も多く、次いで「自転車を利用していない」(24.2%)、「ある」(6.2%)と続いている。



設問：《自転車を利用している方に》

あなたは普段自転車に鍵をかけていますか。(回答は1つ)

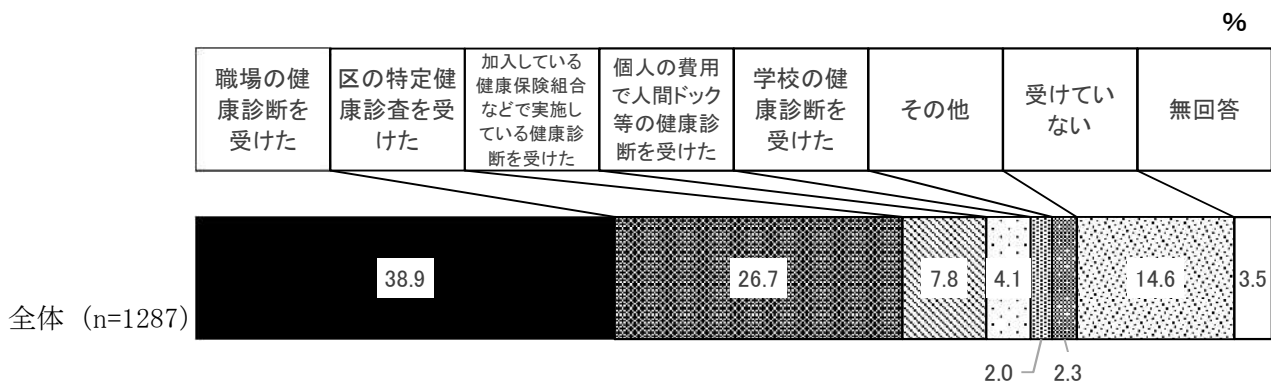
「いつもかけている」(82.3%)が8割強で最も高く、次いで「かけていたり、かけていなかったりしている」(12.8%)、「常にかけていない」(2.1%)と続いている。



5. 健康づくり 【各部依頼調査項目】

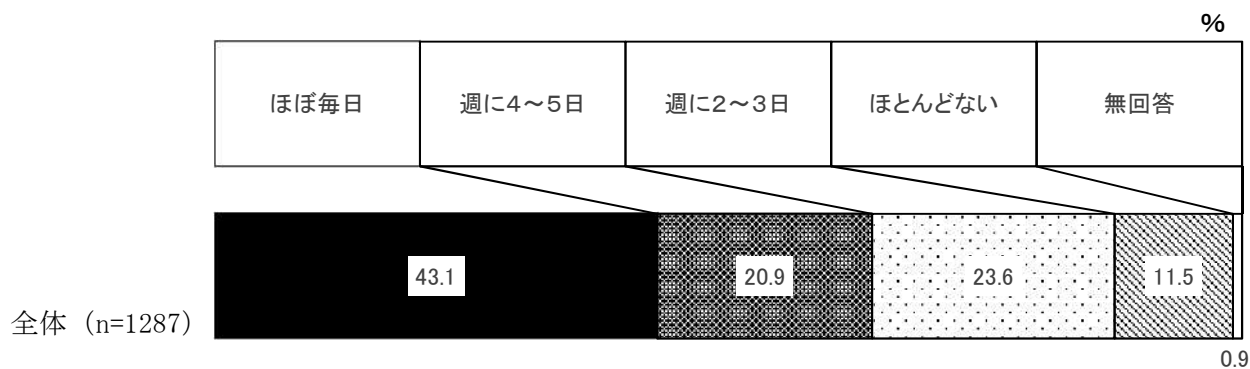
設問：あなたは健康診断を1年以内に受けましたか。（回答は1つ）

「職場の健康診断を受けた」（38.9%）が4割近くで最も高く、次いで「区の特健診を受けた」（26.7%）、「受けていない」（14.6%）と続いている。



設問：主食・主菜・副菜を3つそろえて食べるのが一日に2回以上あるのは、週に何日ありますか。（回答は1つ）

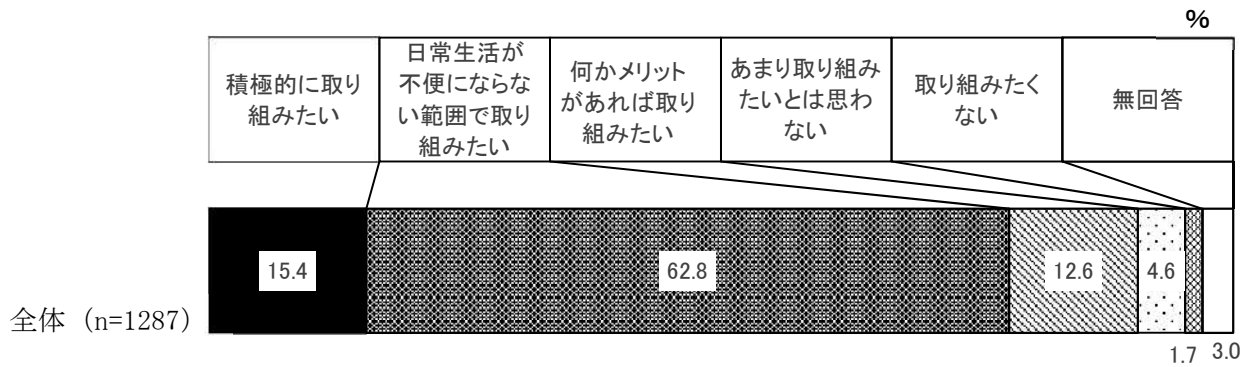
「ほぼ毎日」（43.1%）が4割半ば近くで最も高く、次いで「週に2～3日」（23.6%）、「週に4～5日」（20.9%）と続いている。



6. 脱炭素社会に向けて 【各部依頼調査項目】

設問：温暖化防止と「脱炭素社会」の実現に向けた各家庭での取組について、あなたの考えに最も近いものをお選びください。（回答は1つ）

「日常生活が不便にならない範囲で取り組みたい」（62.8%）が6割強で最も高く、次いで「積極的に取り組みたい」（15.4%）、「何かメリットがあれば取り組みたい」（12.6%）と続いている。



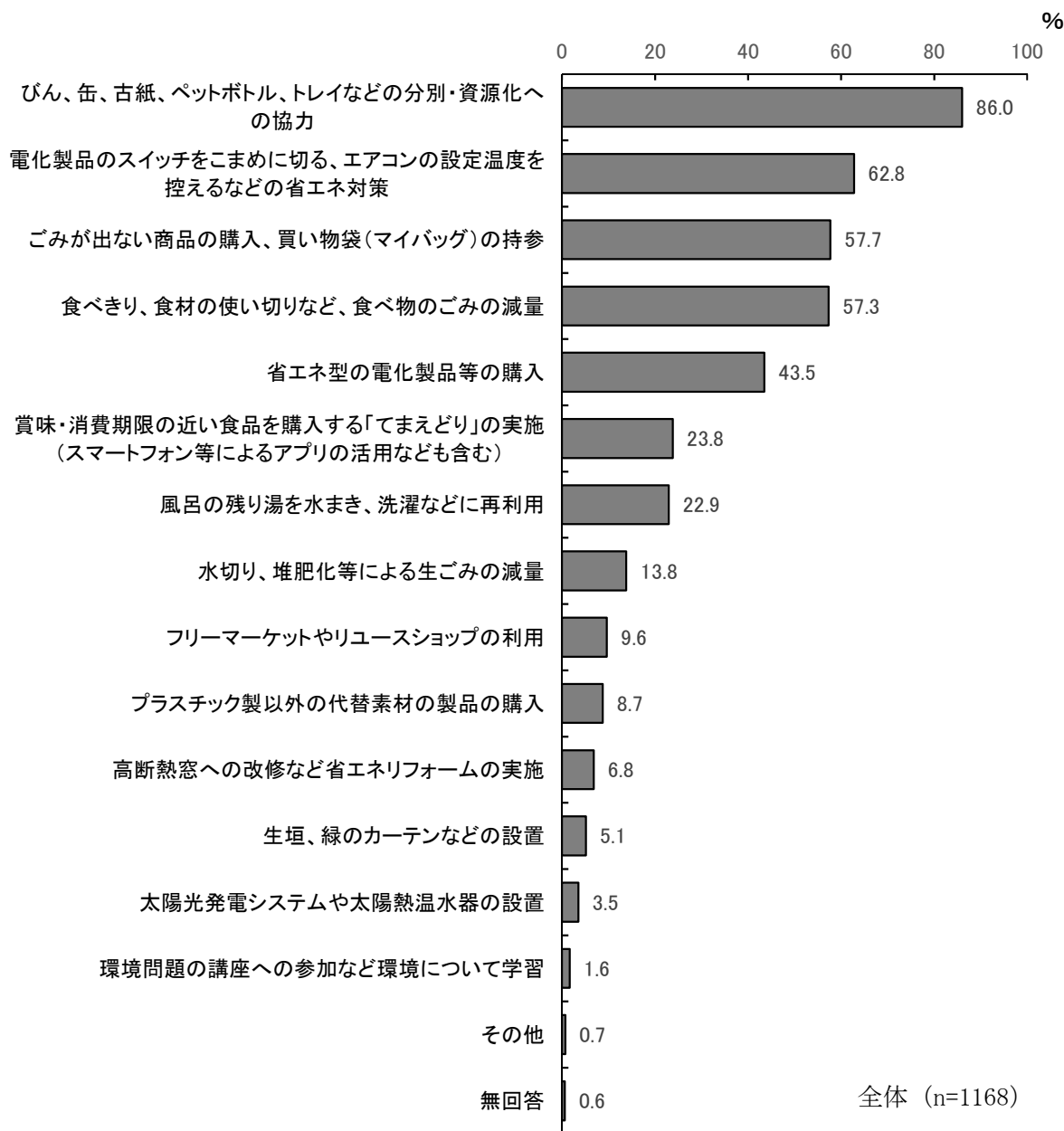
※令和3年度調査

積極的に取り組みたい	12.3
日常生活が不便にならない範囲で取り組みたい	63.0
何かメリットがあれば取り組みたい	15.6
あまり取り組みたいとは思わない	3.5
取り組みたくない	1.4

設問：《取り組みたいとお答えの方に》

「脱炭素社会」の実現に向けた各家庭での取組について、あなたが取り組んでいること、または今後取組を検討していることをお選びください。（回答はいくつでも）

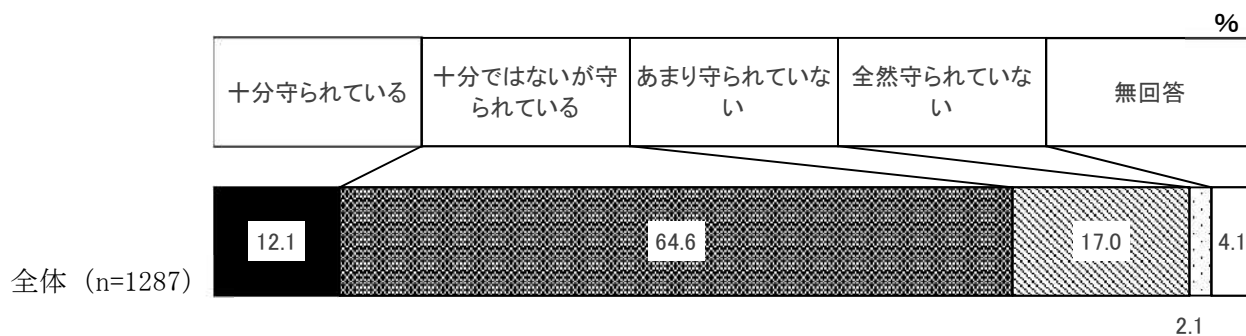
「びん、缶、古紙、ペットボトル、トレイなどの分別・資源化への協力」（86.0%）が8割半ばを超えて最も高く、次いで「電化製品のスイッチをこまめに切る、エアコンの設定温度を控えるなどの省エネ対策」（62.8%）が6割強となっている。



7. 人権意識 【各部依頼調査項目】

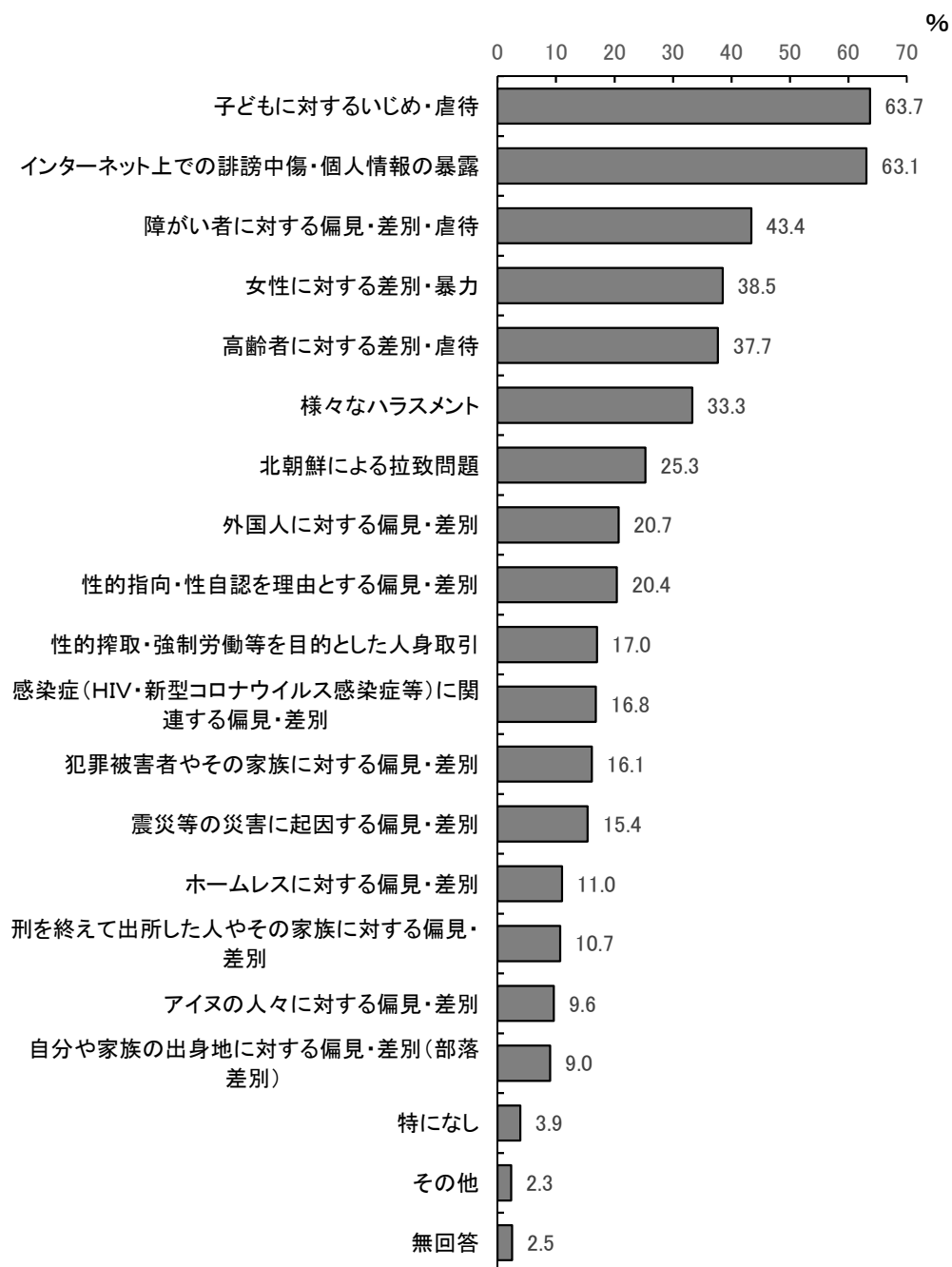
設問：あなたは、今の社会は人権が守られていると思いますか。（回答は1つ）

「十分ではないが守られている」(64.6%)が6割半ば近くと最も高く、次いで「あまり守られていない」(17.0%)、「十分守られている」(12.1%)と続いている。



設問：あなたが、関心があり、解消に向けて取り組むべきと考える人権問題は何ですか。
(回答はいくつでも)

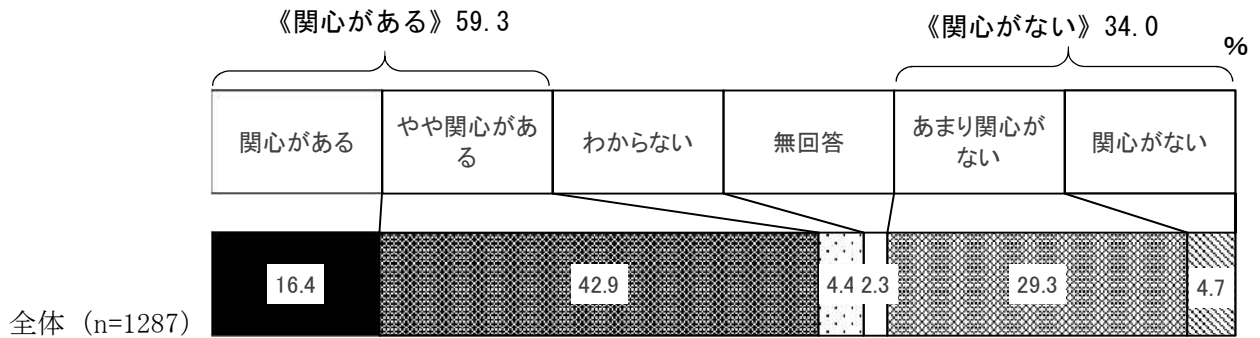
関心のある人権問題について聞いたところ、「子どもに対するいじめ・虐待」(63.7%)が6割半ば近くと最も高く、次いで「インターネット上での誹謗中傷・個人情報の暴露」(63.1%)、「障がい者に対する偏見・差別・虐待」(43.4%)と続いている。



8. 区政への関心と要望 【継続調査項目】

設問：あなたは、区政にどの程度関心がありますか。（回答は1つ）

「関心がある」（16.4%）と「やや関心がある」（42.9%）を合わせた《関心がある》（59.3%）は6割弱、一方、「あまり関心がない」（29.3%）と「関心がない」（4.7%）を合わせた《関心がない》（34.0%）は3割半ば近く、《関心がある》との差は25.3ポイントとなっている。



※平成30年度調査

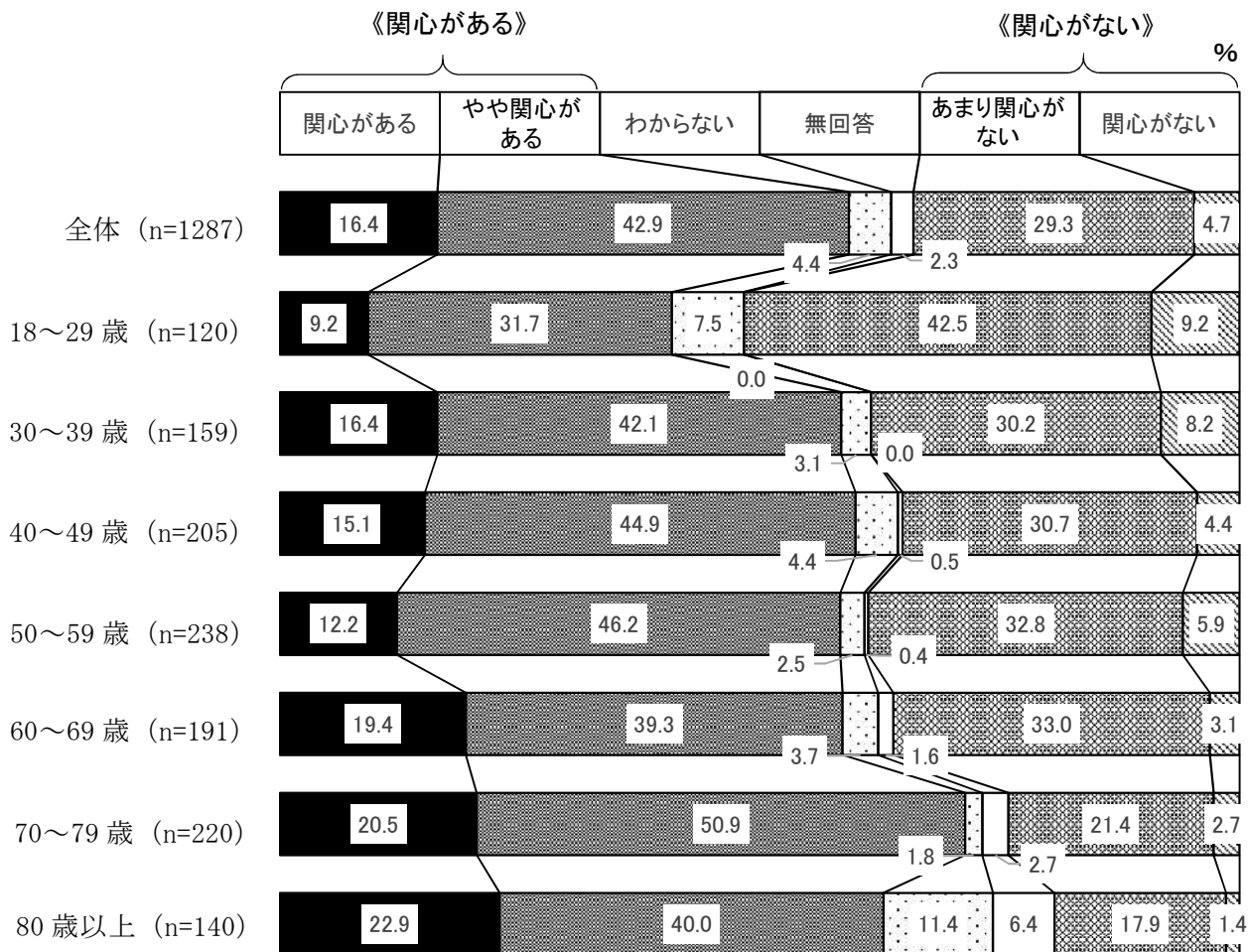
関心がある	14.1	49.6
やや関心がある	35.5	
あまり関心がない	32.0	39.8
関心がない	7.8	

※平成25年度調査

関心がある	17.7	60.2
やや関心がある	42.5	
あまり関心がない	26.6	30.4
関心がない	3.8	

年代別でみると、《関心がある》では70～79歳以上（71.4%）が7割強で最も高く、次いで80歳以上（62.9%）が6割強で高くなっている。一方、《関心がない》は18～29歳（51.7%）が5割強と最も高くなっており、年齢層が低いほどおおむね割合が高くなっている。

区政への関心 年代別



設問：区が行っている事業のうち、「今後、特に力を入れてほしいと思うもの」を5つ選んでください。

【過年度比較】

過去の結果と比較すると、「地震・水害などの防災対策」は令和元年度を除き、第1位となっている。また、「地域防犯の取組」、「子どもの安全対策」は過去10年間で最もポイントが高くなっている。

年	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位		第6位		第7位	
令和5年	地震・水害などの防災対策	59.9	地域防犯の取組	36.4	子どもの安全対策	31.1	高齢者福祉の充実	25.7	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実／幼児・児童の子育て支援の充実		19.7	道路・交通網の整備	18.9	
令和4年	地震・水害などの防災対策	58.8	地域防犯の取組	31.0	高齢者福祉の充実	26.8	子どもの安全対策	23.0	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	19.7	公園の整備充実・緑化の推進	18.3	幼児・児童の子育て支援の充実	15.3
令和3年	地震・水害などの防災対策	64.0	地域防犯の取組	32.8	子どもの安全対策	29.2	高齢者福祉の充実	27.1	幼児・児童の子育て支援の充実	18.1	感染症対策の充実	17.4	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	17.0
令和2年	地震・水害などの防災対策	58.2	地域防犯の取組	31.2	感染症対策の充実	25.3	子どもの安全対策	24.7	高齢者福祉の充実	24.3	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	19.7	幼児・児童の子育て支援の充実	17.7
令和元年	高齢者福祉の充実	35.8	地震などの防災対策	34.7	幼児・児童の子育て支援の充実	23.9	子どもの安全対策	19.2	地域防犯の取組	19.0	学校教育の充実	18.1	健康づくりなどの保健衛生施策の充実	17.3
平成30年	地震などの防災対策	37.6	高齢者福祉の充実	25.8	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	24.3	地域防犯の取組	23.9	魅力ある景観づくり、木造住宅密集地域の改善など街づくりの推進	23.3	幼児・児童の子育て支援の充実	21.6	道路・交通網の整備	19.5
平成29年	地震などの防災対策	31.0	高齢者福祉の充実	28.4	幼児・児童の子育て支援の充実	24.1	道路・交通網の整備	20.7	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	20.5	地域防犯の取組	20.1	公園の整備充実・緑化の推進／魅力ある景観づくり、木造住宅密集地域の改善など街づくりの推進	19.3
平成28年	地震などの防災対策	37.0	高齢者福祉の充実	31.7	幼児・児童の子育て支援の充実	24.9	地域防犯の取組	22.2	子どもの安全対策	20.4	公園の整備充実・緑化の推進	19.6	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	19.0
平成27年	地震などの防災対策	31.8	高齢者福祉の充実	31.4	幼児・児童の子育て支援の充実	23.5	子どもの安全対策	21.9	地域防犯の取組	21.7	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	19.4	学校教育の充実	18.4
平成26年	地震などの防災対策	40.9	高齢者福祉の充実	35.7	幼児・児童の子育て支援の充実	25.3	地域防犯の取組	21.8	学校教育の充実／子どもの安全対策		18.2	公園の整備充実・緑化の推進	18.1	

ライフステージ別にみると、「地震・水害などの防災対策」（全体1位）は家族形成期、家族成長前期以外の全ての段階で第1位に挙げられている。また、家族形成期では「幼児・児童の子育て支援の充実」（全体5位）が、家族成長前期では「子どもの安全対策」（全体3位）が、それぞれ第1位に挙げられている。

今後、区に力を入れてほしい事業（上位7位） ライフステージ別

%

年	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位		第6位		第7位			
全体	地震・水害などの防災対策	59.9	地域防犯の取組	36.4	子どもの安全対策	31.1	高齢者福祉の充実	25.7	騒音・ボイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実 ／ 幼児・児童の子育て支援の充実		19.7	道路・交通網の整備		18.9		
家族形成期	幼児・児童の子育て支援の充実	58.5	子どもの安全対策	53.8	地震・水害などの防災対策	48.5	学校教育の充実	36.9	地域防犯の取組	33.8	公園の整備充実・緑化の推進		23.1	騒音・ボイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	21.5	
家族成長前期	子どもの安全対策	73.5	地震・水害などの防災対策	53.0	学校教育の充実	41.0	幼児・児童の子育て支援の充実	40.2	地域防犯の取組	33.3	公園の整備充実・緑化の推進		21.4	道路・交通網の整備	18.8	
家族成長後期	地震・水害などの防災対策	62.7	地域防犯の取組	40.0	子どもの安全対策	39.1	道路・交通網の整備	24.5	騒音・ボイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実		20.9	魅力ある景観づくり、木造住宅密集地域の改善など街づくりの推進 ／ 公園の整備充実・緑化の推進		18.2		
家族成熟期	地震・水害などの防災対策	66.7	地域防犯の取組	39.0	道路・交通網の整備	27.6	子どもの安全対策	24.8	高齢者福祉の充実 ／ 魅力ある景観づくり、木造住宅密集地域の改善など街づくりの推進		19.0	バリアフリー化の推進		17.1		
高齢期	地震・水害などの防災対策	64.6	高齢者福祉の充実	40.6	地域防犯の取組	37.0	子どもの安全対策	20.8	騒音・ボイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実		20.3	バリアフリー化の推進		19.3	健康づくりなどの保健衛生施策の充実	18.2
（一人暮らし） 高齢期	地震・水害などの防災対策	64.5	高齢者福祉の充実	43.0	地域防犯の取組	33.1	低所得者に対する福祉の充実	29.8	騒音・ボイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実		24.0	子どもの安全対策		21.5	バリアフリー化の推進	18.2
一人暮らし	地震・水害などの防災対策	57.1	地域防犯の取組	37.4	子どもの安全対策	21.8	低所得者に対する福祉の充実	19.7	騒音・ボイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実 ／ 高齢者福祉の充実		19.0	道路・交通網の整備		17.0		
その他	地震・水害などの防災対策	60.5	地域防犯の取組	36.7	高齢者福祉の充実	33.2	子どもの安全対策	21.1	騒音・ボイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実		20.3	道路・交通網の整備		19.5	公園の整備充実・緑化の推進	17.0

**第 48 回 荒川区政世論調査
〈概要版〉**

—— 令和 5 年度 ——

令和 6 年 1 月発行

登 録 (05) 0072
発 行 荒川区区政広報部秘書課
東京都荒川区荒川 2-2-3
電話 03-3802-3111 (代表) 内線 2161